

やっと涼しくなりました。体調はいかがですか？

夏の間体には十分水分補給したけれど、これからの季節は、心にも水分と栄養補給したいモノ。なんてたって秋ですもん。

暑いときにも食欲旺盛だった私にとっては、美味しいもの一杯の秋。誘惑に負け、やたらと体にばかり栄養をあげないように注意しつつ、元気に歌って参りたいと思います。

珠木美甫

お知らせ

その1 珠木美甫 故郷を歌うオリジナル2曲 出来ました

熊本県山鹿市出身の珠木、作者関島秀樹さんに頂き毎日歌っている「帰らんちゃよか」は、すっかりお馴染みになりましたが、作詞家、作曲家の方とご縁があり、この度オリジナルを2曲作っていただきました。

「肥後もっこすの唄」作詞 古賀一弘 作曲 白川雄三

肥後もっこすとは、曲げない熊本の男の気質、「男はめったに笑たらいかん～」で始まるこの唄は、五木の子守歌を挟み、哀愁のあるメロディーライン。男の強さ、優しさ、ロマンを歌っています。

「タイトル未定」作詞 遊なおこ 作曲 白川雄三

珠木が生まれ育った山鹿のお盆の祭り、灯籠祭にちなんだ女の歌。和紙と糊だけで出来た灯籠に灯を点し、頭に乘せた千人の女性が“よへほ～よへほ～”と優雅に舞う幻想的な祭り。保存会の踊りの振付をしたのは母です。先日、熊本放送(RKK)の番組の中で、増田良子の名前と写真が紹介され、感無量でした。母亡き後も、毎年保存会のお嬢さん達によって、踊り続けられています。この歌の題名も皆さんに考えていただき、たくさんの人に振り付けして踊ってもらえたらと...と思います。そしていつか、玉三郎さんにも八千代座で...と夢見ております。

聞いてみて下さいね。

その2 熊本山鹿 八千代座 百周年で歌います

熊本県山鹿のシンボル、国の重要文化財にも指定されている芝居小屋、八千代座。板東玉三郎はじめ歌舞伎、舞踊、芝居で華やかに賑わう八千代座が、開設100年を迎えます。子供の頃の遊び場で、芝居や映画を見ていた大好きなこの小屋で、何度か歌いコンサートも開きましたが、今回は山鹿市の企画で、呼んで頂きました。色々なジャンルで頑張っている、何名かの地元出身のアーティストが出演し、私も30分程歌わせていただきます。私の伴奏は、ピアノ・アニエス 晶子さんです。

日時 2010年11月20日(土) 夕方～9時頃まで 珠木の出演は8時位でしょうか

場所 熊本山鹿市 八千代座 料金 500円(ワンコインです)

自由席。チケットも予約も無しでどなたでも入れるとです。800名様は大丈夫。栈敷席も風情があってよかですよ。興味のある方は、珠木に言うてみて下さい。早かとか安か飛行機も取るとですよ。山鹿の温泉にも一度つかってみなはらんですか？